

行番号は、担当ページの先頭から数えたものです。同じ行に登場する単語は、行の欄が空欄になっています。つづりのミス、行番号のずれ、注文等があったら教えてください。by まつうら

単語表 (After the Cold War p5)		
行	単語	意味
1	victim	(名) 被害者, 生贄
2	netherworld	(名) 死者の世界, 冥界
4	woeful	(形) 悲惨な, 嘆かわしい
	betrayal	(名) 裏切り, 背信
	depravity	(名) 墮落, 悪行
6	defiance	(名) 挑戦的態度, 無視
	civil	(形) 一般人の, 国家の
9	extoll X	(動)X(人, 行為) を激賞する (=praise highly)
10	revelation	(名) 暴露, 摘発, 新発見
17	reportedly	(副) 伝えられるところによると, 噂によると
20	dub O C	(動)O を C と呼ぶ, 名づける
22	jealous	(形) ねたんで, しっとして
23	conspicuous	(形) 人目を引く, 顕著な, 明白な
26	reunification	(名) 再統一, 再統合
30	screen X	(動)X を隠す, 選別する, かばう
34	petition	(名) 請願書, 嘆願書
35	parliamentary	(形) 議会で制定した, 議会の
36	commission	(名) 権限, 委任, 委員会, 任務
38	dictatorship	(名) 独裁者, 独裁国家, 独裁権
40	regime	(名) 政治形態, 政治
42	oversee X	(動)X を監督する, こっそり見る, 見渡す
43	culminate	(動) 最高潮に達する, ~になる
45	reconciliation	(名) 和解, 調停, 調和
	underline	(動) ~を強調する
46	earnestness	(名) まじめ, 本気, 熱心
47	fallout	(名) おこぼれ, 好ましくない結果, 脱落者
60	archive	(名) 公文書, 記録文書, 保管所
70	constitutional	(形) 憲法上の, 合憲の
73	reclamation	(名) 更生, 教化, 再生
76	expropriate	(動) ~を没収する
81	milestone	(名) 画期的事件, 重要な段階
89	tumultuous	(形) 騒々しい, ひどく乱れた, 動揺した

次は、段落のまとめですね。But the files ~ からまとめてみます。と、その前にみんなの作ったものを参考にしつつ、今までの流れをざっと振り返ってみます。

まず、本文冒頭では、1985年に社会学者のRichard・L・Merrit氏が考えたベルリン再統一の影響が述べられています。要するに、再統一については、政府だとかその他の物理的な点は問題ないが、人々の感情的な面が厄介ということです。彼の指摘は、まさに20年たった現在でも当てはまっているそうです。(人々は、いまだに再統一後のショックに苦しんでいる)

さらに、事態を混乱させている要因に東ドイツの文化的アイデンティティを持つ分離主義者の存在があるそうです。1990年代、多くの東ドイツの人々が失われた共産世界にあこがれていた。(= Ostalgie) 実際にはこれらは、再統一という混乱した流れの中で、東ドイツの人々が感じた幻惑症状にすぎなかった。類似の現象が、同じく社会主義国家であったロシアやポーランドにも見られた。西側国家でもみられたが、東ドイツほどではなかった。

東ドイツがなぜここまで熱く盛り上がったのか？それは、冷戦でのライバルに当たる西ドイツに吸収された上に、1990年までに独立できなかったソヴィエトの衛星国(=軍事的・政治的な大国の周辺にあって外交や、内政に強い影響を受けている国。ソ連に関して言えば、チェコスロバキア社会主義連邦共和国、ハンガリー人民共和国、ポーランド人民共和国、ブルガリア人民共和国、ユーゴスラビア連邦人民共和国、ルーマニア社会主義共和国、アルバニア人民共和国など)であったかららしい。(がっかりその1)再統一がライブチヒからブンデスバンクの間で行われるという閉ざされた中で行われたものだったかららしい。(がっかりその2)"再統一はしょせん官僚や政治家たちのすることにすぎない"という学者もいた。

でも、市民たちが自らの手で行動を起こした瞬間もあったんだ。これが、ここ以降で述べられているシュタージ(stasi, 秘密警察。軍隊に次いで2番目に大きな組織だったらしい。)襲撃について。ライブチヒに始まり、いたるところで襲撃がおこなわれて、いろいろなことが暴露されていくわけですね。これにメディアも注目。Armin Mitterによる本により、SED(=ドイツ社会主義統一党)の役員たちの派手ぶり、組織下にある秘密警察の数、そして範囲が明らかになる。秘密警察は住民に関する膨大なファイルを作り、住民を監視し、スパイなども送り込んでいたのだ。この膨大なファイルの処理をめぐって、熱い出来事が起こってくるわけだね。stasiの集めた膨大なファイルは不正に行われたものであり、これはさっさと公にせずには破壊すべきという意見がいろいろなところで言われていた。公にすれば、人々が人間不信にいたり暴力行為が行われかねないかららしい。でも、今までの不正を相殺し、市民の自己決定権の第一歩としてファイルが市民が見れるようにすべきではないかという意見が出てきた。(でも、このときファイルは別のところに保管してあって、見れないことに・・・。市民激怒。また暴動、デモ。)

んで、結局、ファイルは公開になるわけ。法学者に言わせれば、この公開は2つのプライバシー権が入り組んでいるらしい。1つは、たぶん知る権利の事だと思う。2つ目は、不正に得られた情報によるファイルだから犯罪者とか情報提供者とかのプライバシーが守られない可能性があるということ。まあ、こんなことも言われたけど、結局ファイルは公開になる。ファイルを見た多くの市民たちはショックと痛みを隠せない。自分のよく知った人が実はスパイであったことが明らかになったり・・・etc。

ようやくここから担当箇所ですね。"ざっと振り返った"で済んでないですね。まあ、今まで書いたところは別に要らないって人はココから。ファイル公開はよい面も多少あったらしい。道徳的な態度や市民の勇気についてとか。でも、ファイルを読んで、今までの自分たちの生活がいかに不自由なものであったかがよくわかったと認める人が大多数だったらしい。予期しないことも起こった。ファイルの開示を申し込んだ人がファイルがないと言われたと言ったそうです。これは、ファイルを持つ人はいやらしい目で見られる雰囲気があったかららしい。(政治的抵抗とか、調和を乱すとか)

まあいろいろあったが、ファイル公開については成功を否定できない面がたしかにあった。再統一時には少なかった、ファイル公開を求める人がどんどん増えていったんだ。それで、Gauck Authority(=が東ドイツの政治の効果について議論しあう委員会を作った。これには市民の意見も取り入れられた。

結局何なんだ？ってことになるんだけど、

1. 他国では、ファイルが破棄されたりしたために成しえなかった、共産主義者たちの権力濫用についての調査ができた。かなりの資金を投入したことも述べられている。

2. ファイルの所持が、ドイツの民主主義の新たな基礎の象徴につながった。

ということがいえるらしい。

最終段落。ファイルの所持は、社会主義の終焉を象徴し、GDR 時代にならぬ新たな市民社会の到来を暗示した。そして、従来のマルクス主義のスローガンを転換し、歴史を取り戻すことにつながったとさ。

こんな感じかな。何か間違っているところとかあったらどんどんいってください。by まつうら